

## スリナム月間情勢報告 (2019年7月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- 来年5月の総選挙実施準備のため、内務省は準備管理委員会を立ち上げ、各政党との会合を持つなど、透明性確保に努めている。
- 米ドル不足が続く中、中央銀行は対米ドル為替レートの固定ないし帯域幅を持たせようとしているが、経済界から不満も聞かれる。
- ラブロフ・ロシア外務大臣がスリナムを訪問し、軍事技術協力を含めた2国間の関係強化が協議されている。

### 2. 内政

- 7日付当地紙は、昨年アムステルダム空港でスリナムからのユーロ輸出が資金洗浄の疑いで押収されたことは、スリナムを標的としたものではなく、他国からの現金輸出も捜査されたと報道。
- 14日付現地紙は、20年の次期総選挙では約4万人の新規有権者が登録され、これら若者の投票が結果を左右する可能性があるとの報道。
- 15日付現地紙は、内務省は来年5月25日の総選挙実施準備のため、同省職員5人からなる選挙準備管理委員会を立ち上げ、全政党との情報会合を持つ他、ホームページの立ち上げ等、透明性確保に努める、内務省は各地域の委員長との選挙準備に向けた会談も実施していると報道。
- 15日付現地紙は、ボータッセ大統領はカリブ海金融行動タスクフォースの一員として資金洗浄とテロリストへの資金供与の当国の危険度を特定、評価、理解する必要があるとして、国家危険度評価の実施を許可した、評価の結果によっては現法制度の改正も必要となると報道。
- 20日付現地紙は、米州機構人権委員会は、82年12月8日事件の被害者の遺族から苦情を受け付け、スリナム政府に90日以内に返答を出すよう求めたと報道。

### 3. 経済

- 6日付現地紙は、5日ランズ病院はロシアから13万6,350万米ドル相当の新生児支援装置等の供与を受け、引き渡し式が行われたとの報道。
- 8日付現地紙は、財務省は今年第1四半期の政府財政収支報告を議会に提出

した、この四半期に税等の歳入は14億5百万スリナムドル、借入れ等で追加に17億5,500万スリナムドルの歳入が計上され、主な歳出は補助金、給与、資本支出等であったと発表したと報道。

●8日付現地紙は、中央銀行は対米ドル為替レートを7.85スリナムドルで固定することで調整を行っている、このレートは中央銀行の公定レートの平均値、基礎物資輸入者はこのレートで米ドルを購入できると報道。10日付現地紙は、スリナムドルの対ドル引き下げは行われておらず、7.52スリナムドルのままであると報道。

●10日付現地紙は、世銀はスリナムの統治改善及び分野多様化促進支援のために2,300万ドルの借款供与を決定した、この支援は民間部門の成長、雇用促進、特に中小企業が裨益すると報道。

●18日付現地紙は、農業省は、中国長沙で行われる農業セミナーに同省及び民間部門の代表20名を派遣し、農産品の加工及び取引に関する研修を受けると報道。

●25日付現地紙は、デビパサード・エコノミスト協会理事は、中央銀行は不正外貨交換防止のため、米ドルとの為替レートに帯域幅を設けているが、両業者はこれに苦しめられている、中央銀行は真の問題は当国の通貨政策やスリナムドルへの信頼の欠如であると理解すべきだと述べたと報道。

●28日付現地紙は、26日スリナム中国経済人会議が開催され、駐スリナム中国大使は、18年の両国間の貿易額は2億6,800万米ドルと前年比31.46%増、特にスリナムの対中輸出は102%増と述べたと報道。

●28日付現地紙は、日本国際協力システム（JICS）職員がスリナムを訪問し、18年に署名された漁業分野での経済社会開発無償資金協力に基づき、製氷機6台の購入と設置に関する協議を行ったと報道。

●29日付地域紙は、18～19日アルメイリ・ア首連食料安全保障担当大臣一行がスリナムを訪問し、両国間で食料安全保障に繋がる農業ビジネス回廊を構築するための協議を行ったと報道。

#### 4. 外交

●9日付現地紙は、アディーン副大統領は3～5日開催されたカリコム同首脳会合に出席し、その際ソールベルグ・ノルウェー首相と会談し、二酸化炭素排出権取引に関するノルウェーのスリナムに対する具体策等を協議したと報道。

●3日付現地紙は、2日パラマリボ市とブリュッセル市は、都市建築維持管理のための協力覚書に署名した、これは昨年スリナムとブリュッセルが署名した協力協定に基づくもので、双方の観光促進への効果があると期待されると報道。

●10日付現地紙は、9日モラレス・ボリビア大統領はロシア訪問の途次にス

リナムに立ち寄り、ポータッセ大統領及びポラック＝ビゲリ外務大臣と会談し、スリナム最高位の勲章を授与され、両国外務大臣間で査証免除及び外相レベルの政務協議開催合意への署名を行ったと報道。

● 10日付現地紙は、スリナムと国連機構の会合がスリナムで開催され、19及び20年の協力案件につき協議されたと報道。

● 11日付現地紙は、ディカン地域開発大臣はスリナムの部族長を率いてガーナを訪問し、オセイ・トゥトゥ2世王位20周年を祝福したと報道。

● 14日付現地紙は、アディーン副大統領は、仏領ギアナ国境付近の共同開発合意のために、ハイレベル代表団を仏に派遣すると述べたと報道。

● 14日付現地紙は、スリナムの遺跡保存関係者は、ベリーズを訪問し、文化遺跡を視察し、両国の遺跡保護のための技術交流が開始されたと報道。

● 26日付現地紙は、21～24日エリアス保健大臣及びウーフダド財務大臣はキューバを訪問し、ミランダ保健大臣と会談し、両国間の保健分野での協力につき協議すると共に、各種保健施設を視察したと報道。

● 26～28日付現地紙は、26～27日ラブロフ・ロシア外務大臣がスリナムを訪問し、ポータッセ大統領、アディーン副大統領、ポラック＝ビゲリ＝外務大臣等と会談し、エネルギー、農業、教育、鉱業等幅広い分野における協力強化につき協議した、また両国は軍事技術協力に関する合意文書を協議中と報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。